



和歌名所追考



神名帳五十八座

大十四  
小四

大神宮 大 三座  
 瀧原宮 大  
 月讀宮 二座  
 高宮  
 蚊野神社  
 狹田國生神社  
 草名伎神社  
 磯神社  
 月夜見神社  
 奈良伎良神社

度會郡

荒祭宮 大  
 伊佐奈伎宮 大  
 度會宮 大 四座  
 朝熊神社  
 鴨神社  
 田乃家神社  
 園相神社  
 多伎原神社  
 湯田神社  
 大水神社

名所追考一

津長大水神社  
 御食神社  
 田上大水神社  
 坂手國生神社  
 久々都比賣神社  
 大間國生神社  
 神前神社  
 椽村神社  
 度會乃大國玉比賣神社  
 志等美神社  
 山末神社  
 栲原神社  
 宇須乃野神社

大國玉比賣神社  
 大土御祖神社  
 國津御神社  
 西米皇子神社  
 川原坐國生神社  
 江神社  
 朽羅神社  
 度會國御神社  
 清野井庭神社  
 川原神社  
 大川内神社  
 川原大社  
 小俣神社

川原洲神社  
 雷電神社  
 官舎神社  
 里之名

大神乃御船神社  
 萩原神社

宇治  
 湯田  
 箕曲  
 二見  
 陽田

田部  
 伊蘇  
 沼木  
 伊氣

城田  
 高田  
 徳橋  
 驛家

各所追考一

名所之目錄

伊勢 海 嶋 後 神

内外宮

八石之宮

渡會 川 天照山 神 官

畫月神

朝日宮

豐之宮

月讀神 森

栲宮

風宮

大歲神

八百相神

神道山

宇治山

神垣山

注連宮

五十鈴河 川 官

御裳濯河 等

宮河 之 官

御川池

千枝枝

百枝松

山田原 里

高倉山

忍穂井 志 井

隱乃山 小 野 池 官

朝熊 官

鏡宮

畫川山

塩合濱

林崎

鞆山宮

樺木里

藤浪里

長木里

瀧波山

大浦田沼

荒木田

湯田野

二見 浦 野 山

御塩殿

音無山

小野古江

小野乃江橋

三津浦

荷給堂

淡渚

打越濱

立石崎



神濟山

阿波羅氣嶋

伊氣浦

小濱

芝生

浦嶋湊 川原山

乱橋

篠間

滝原

文

并宮

味曾瀬

錦嶋

岩出

河邊里

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

伊勢

依集

ふくよめ

二

二よりひふそく人れおひせぬおとせぬ

万

神風乃候後れあまを何ふそく人えぬ

古

あれのいほるる 文の内を きて住し

い

いせれあまは 海ありしころ 心して よらん方

か

かあまよ下畧 常世別宮 伊勢

け

けあまをそよとる人まうれてたより色ある花

風土記曰夫伊勢國者神武天皇勅詔天日別命曰國有天津之方宜乎其國印賜標劔天日別命奉勅東入數百里其邑有神名曰伊勢津彦天日別命問曰汝國獻於天孫哉答曰吾不見此國居

名所自考一

住日久不敢聞命矣天日別命發兵欲戮其神  
 于時畏伏啓云吾國悉獻於天孫吾不敢居矣天  
 日別命令問云汝之去時何似爲驗啓云吾以今夜  
 起八風吹海水無波浪將東入此則吾之却由也天  
 日別命令整兵窺之比及中夜大風四起扇舉波  
 瀾光曜如日陸國海共朝也遂無波而東焉古語  
 云神風伊勢國常世浪寄國者蓋此謂之也  
 伊勢津彦神近 天日別命 壞築此國 後命 天皇  
 大歡詔曰國宜取國神之名号伊勢爲天日別命  
 之村比國賜宅地于大倭耳梨之村



海

約す海

乃る

志不丁貝

後發

後發

約亦

あつひの貝

後發

後發

後發

後發

後發

後發

後發

後發

後發

後發

万葉

伊勢の海は夜もさうさうに波打てて人々を驚かす也

伊勢の海乃仲つゆ花小くつて是て妹を愛つて也

伊勢此海にあらず志海つる鮑玉さうてはほもさ

伊凡乃是れ海の朝まよふまよふさうさうなる

まよふ伊凡なる海なるれさうさうとては

まよふ伊凡なる海なるれさうさうとては

伊豫の海はつる田島海は言とるも其の先を承意に人  
 とりねとて少く心にいせ海乃とて言ふ海はとて言ふ  
 浪も分るるひひらひの海はつるれの方れ名多きん之備  
 うらひは物もむむいせの海はあまのくあつる言ふ  
 伊豫の海乃蛇乃物舟まふ風よあつる言ふひふやん日  
 伊豫の海乃大石は八重をひりしる言ふこれあま  
 ちくく尺れいひひりしる言ふ言ふ人

右々神武天皇嘗其嚴倉之粮勤兵而出先轂手  
 八十梟師於國見丘破斬之是役也天皇土心存  
 必克乃為御謠之曰トミ  
 新日謠意以伊勢海之大石喻國見丘以今梟師  
 喻具將是也如取纏射于石間之具上輒輒取八十

梟師之由也

伊豫の海はつる田島海は言とるも其の先を承意に人  
 とりねとて少く心にいせ海乃とて言ふ海はとて言ふ  
 浪も分るるひひらひの海はつるれの方れ名多きん之備  
 うらひは物もむむいせの海はあまのくあつる言ふ  
 伊豫の海乃蛇乃物舟まふ風よあつる言ふひふやん日  
 伊豫の海乃大石は八重をひりしる言ふこれあま  
 ちくく尺れいひひりしる言ふ言ふ人









渡會

郡名也

下三上二

日十二

新

夜集

王吟

また

日

神名秘書曰度會郡者大國玉神奉迎之時以  
 梓弓為橋而度焉爰大國玉神依々良比賣參  
 来迎相土橋郷是木村自余度會云吾固以為  
 名也

川

万二千

又本

聖玉集

此河の事也郡の名を付けてわたりあひ川とせり  
 阿波川 阿波川系 新之川 皆也

万二千  
 又本  
 聖玉集  
 天地を争ふぬまをわたりあひ大河野道をかすみ神人  
 糸指物終 伊豫乃山甲りまうりつゝ実る大川  
 ありるぬねをわたりあひ川とせり古老の傳は河部  
 川系とせり万二千 度會川 新之川とせり此是也

内外宮

名三

代の事なりてまうりつゝの柱を記す此山は  
 神凡やなまうりつゝの柱を記す此山は  
 是も内外宮の事なりてまうりつゝの柱を記す此山は



いふ斗より記すして天照やひもれ神を志りてん

朝日宮

伊勢好まのこよん終りたる

神風や朝日代まのこやじり氣のふある世ふと有瀬名

豊宮 在沼木郷山田原

神代天津とやれんしはうつていのとよみ人

太神文は法てまうたる百首のまれ中しよ

後後於海くもかこまをれ文程ふ海ふ心をたよと人後成

追考是外宮れ神り也ま受白太神ましく土師門内大臣

く故のゆえ号也神神を天津中主國号也

國常立号一神也

一説ま受乃訓をまよけ本語せられやササ田氣

しとりまよけの二字假名とせむ起のま  
く成傳りゆとけく備すの文高時ハとよ  
けのまよけの名目うり是止由氣の文高お通  
よつていらふまよけと一字中略していれ  
るいれふてもあり人信令等由氣と書り  
まよけとよむ志る人さうし師伝傳りまれ  
しとりまよけとよめるをいまい人信也

月讀神

在兩宮一内宮の六中村とふ里乃少は兼あり外宮の六神宮のわいあり

月トれ神してまよけありははるは母もれまよけ太中臣

まよけまよけまよけまよけまよけまよけ多院

神代よりまよけまよけまよけまよけ長崎

三の内名とまよけまよけまよけまよけ兼神



つらやめ入湯田也陽かつらも移りてまへ  
さ由長田れい系不とくして下界へくせめ  
け界の米れ種是より神文乃社目も移と喰  
されをけいしれまうしと

### 八百相神

禁おまよくひきもあまの代志の事とあひ神やか人蓋  
支本世の中とあまは新代内よあせあまのあまて八百相神西行  
けいひのふ物使くしと出内守宰相あてま  
くまといすく川れほとてあてんてようくしと

### 神道山

新古月ヶ 新古 於藤川 日 一のま 後撰 山の朝日  
後撰 神 日 小車代綿 新撰 志ち纏  
後撰 内外のま 日 百枝の紅 新古 岩戸

新古 尺もすそ川 新古 十寸鏡 日 志く八丈 新古 松の風

多野乃山と経うれて後伊飛代玉二尺乃浦乃  
山寺よりゆるく又太林文丹山とく神道山と

子撰 入て神道山奥と尋せ六又くもあまの代志を凡 西行  
歩集 神道山まもせれ陰志けいしとこのことゆるく

神道山このむ方ううく風よあひおうし色やまゆん 日  
神道山このむ本陰代志けいしとこのことゆるく

後このむ神道の山れをの凡いくよれまも又ハクウ 日  
つまもをぬ都の命よ吹くく入神道山乃ち番代と凡 日

神道山あつ心のちたよいそてありん色よまゆん 日  
抄 けいもあけてれおむゆいしとこの山れり番代元 蓋

かみめて志しそ早神道山百枝れま乃ち番代凡よ 日





名所 是も又於此よりうらの心や海にえかりれ志のすけり 長

### 神垣山

又應え七社百首 伊勢

夫本 早振神垣山此自兼いあまてる 社此皇うと流る 為家

### 注連宮

新抄 神もさくあふらん 櫻ちる 志此交る 於後あすあ 延季

### 五十鈴河

新古 考う代 日 下つ志根の松

後撰撰 神代の後 日 下つ志根の松

凡雅 考う代 日 下つ志根の松

抄玉 川も年此後のはるよ 神凡さすすう月氣 並撰

日 心よあけや 少きいす 川あも 氏良

日 柳も此内せとれる 考う代 日 下つ志根の松

抄玉

んてく此もや 卒於此に何故よ 山のまきもあや 日向 定家

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

### 川原

新古 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

日 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代 考う代

名所 百首

家集

ちり

ちりから日暮もあし神風やいす川系舟を乃後ハ家隆  
ちりれまよす川系玉あて後せぬと人かく七と六並  
まら代よそ人朝目とあふ式いすに系代春の物不乃後並

宮

家集

神々やいすれ川乃文柱りく文代すめと立始人後成  
ちりやういすれ文のまの境りぬ代代とてりひとれ 雅忠

日本記一書云太神自高千穂穂觸之峯為猿

田彦先驅者到伊勢之狭長田幸千鈴川上

追考幸千鈴川ハ内文の神あうりあうり川と云  
也一説伊勢産所と云千鈴川上と云ひ二入の江  
と云千鈴河伝と神言たると伝ねん此空流  
川の惣名と云く又云千鈴川と云名ハ太神  
文正神産のあうり此りくといふ

御堂衣濯河

内宮の神あうり流いつと云千鈴川といひ鏡石の方より流  
いつと云んてす川といひしとせしとも只んてす川も千  
鈴川も空流の惣名と云

後後撰

日 千本花庁批

凡雅 ちり原

日 百枝の雲

彭子 玉柏

日 神流山

日 三角柏

彭石 漸く此白波

後撰

意う代ハつと云いそ只神風やみもすそ川のす入限ハ經信

神代より甲一産也まらんとすそ川代産此の意日

美代代始のたういと云ゆ式んてすそ川もすそ月氣日

彼まてうけてそ初る神風やんてすそ川乃末れ一故日

神風やみもすそ川乃そのかまは終りる代末たう家日

神風やみもすそ川代末の故昔代始もま立かつら日

んてすそ川代末の故昔代始もま立かつら日

んてすそ川代末の故昔代始もま立かつら日

立たつ世しありや神凡やみすそ川其末の白波日

みすそ此ひる文流は思ふ目此あまねき新の四方は海後宗隆

あま玉れ道や神代よかろらんみすそ川其末のさつ凡日

神凡やみすそ川の所是石言う依依まき思ふ向冬は後成

くま風やみすそ川は新屋しあろれそやあろろそらん定家

まゆもろへ物う神凡やみすそ川乃まれ夕暮日

わろねむ心の座をてしんよみすそ川よやとる月うけ日

月やとるみすそ河は神の秋のつれ集もあろそやあは日

くま引れ集めてよねあろそ目れみすそ川をそ新て(女)家隆

神凡やみすそ川は石流あもそろるそやすそ神のそらん日

かんねまそて心そそろる神凡やみすそ川はあろそ文のそらん日

神凡や八重井さう凡はかきぬてし依堂濯河は末そらん後宗隆

万代いんもすそ川のまれあもそ流よまそそらんそらんそらん日

万代乃集しあそよんあもそそ川其まそ乃あけそれ日

又もすそや新そかろる神凡れ心うあぬ時れまそあそ日

久方れあまのそまそつよあもそそ川のちそれ行そ日

目新よ昔わすれそ神凡やみすそ川はは波れ声日

神凡やみすそ河は集う屋かろれの事や小れち波後宗隆

そらの集しそにかろる神凡やみすそ川はは月新頃後宗隆

神凡やみすそ河は夕暮そまろそとせれ神や後定衡

神凡よ雲晴りハそれよも月新清くみすそ河は後盛

やろろる光ハすし神凡やみすそ川乃それよ乃月無束

そぬ集をみすそ河はゆろろそけて夕れ波そけそ思定

そつろそ夜そ集神凡やみすそ川は集ま月そそ集

そそ集をみすそ河は集よふひくまもあろ物れ集そ際そ行能

そそ集をみすそ河の神凡は万代ちそる水代は波康定



らるるありかゝるよまはしめぬはけぬきり  
けぬよああるをうもよまあぬはけぬきり  
袖よつらんで収あり 日本記よ津細家よつら  
玉史よりハ三角拍とかけると 延表式ハ三角拍と  
いり 今案よつらんでの目より収ありのとよ  
ま也三角拍といふハ三角拍よりつらのを略して  
こののとよけぬきり

水神記云三角拍ハ伊勢此依く良爲といふ事  
あり 吟祖ありて陸よりなる一神玉の爲に  
水の上一州<sup>伊勢</sup>此依神玉なる事ハ信よ其言  
よあつと<sup>伊勢</sup>神玉沈是と也  
追考依く良爲ハ志<sup>伊勢</sup>玉谷志郡の内よりあり  
伊勢文より五六里南仲の方あり

長明伊勢記

非凡やんつ拍よまようたきつむようハ海也と云小島  
けつこうてハうまあうまあやまあか  
つらあく思ひしむとけつむんてまうぬゆよ  
えきくあうまよまのこつむいさるるいさこの  
拍捕歌の集よみしすその所の考よけするといふ  
得ハそのまういあるしてまぬれハ其言あり  
久ん今の世よハ志<sup>伊勢</sup>の玉の角よまの志後と云  
下あり 本のとよまうの考よまてまうまの考  
つらまうあういひまうてあうまの考  
まうまの考よまあうまの考よま其あう  
やまあまの考よまの考よまやまひつらまの考  
伊勢文四巻此取まうの考よまの考よま

三ノ水前此水ありて 四ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 五ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 六ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 七ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 八ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 九ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十一ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十二ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十三ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十四ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十五ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十六ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十七ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十八ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 十九ノ水より此水あり  
 とくこれより水ありて 二十ノ水より此水あり

宮河

太神宮大同本記曰神嘗以十七日直會  
 伊勢皇太神宮舊書云山谷水變成甘水浸潤  
 苗稼得其全稔故有風水祭名曰柏流也豊年  
 源流凶年則沉覆之四月七月祭之  
 此三角柏乃垂とあはてり神よく向そりて  
 月夜 春れさるる 文川此岸の松村色るり也  
 日集 文川のまじりて此松の影をうらむ  
 日 此松の色をうらむ文川の影をうらむ  
 日 文川やいもみと此松の影をうらむ  
 日 久々此松の影をうらむ月影さるり 文川乃松 日

名所見考一

三

朝夕よあつて心なれりては流もあつてよとや川の月日  
ふくれあて由はなれぬは久しうも六の川よりや後宮は志西行

豊宮何

由後宮すをよ川は志西行おより志を流の流る那 度舎 胡勝

追考外宮は町の西に在之を文川中名を七畧とて  
文川といふ又外宮は文中の町の境は何ありを  
川といふ是を別也

清川池

母官家集 生れ又ふの池はあやまを記たり人をもいふ多ん 昔御 子女王

齊文式云電山清川池等神奈とある是を  
記し外宮は神王御殿ハ清川の池の邊也  
之長記云を受れ清前と流通る川は今ハ  
大あせ清川といふとて一流神奈は清池のよりして清

千枝枝

外宮の南一町許南あり  
太神宮よまうてくろの崎千枝枝とよふ伝くる

世とて神神は志西行今も於志けする千枝枝 勝定院 後 聖 集  
之長記云千枝枝のより傳古千枝の志西行也  
人の極れたる枝と列千枝枝とすといひ傳  
一とて一流千枝といひ一とてハいふ事  
但一系院は清定は伊勢大文司よ大井長  
千枝といふあり南系といひ同流して一系  
圖はあり是を又ふれしやとてとて  
と大文司はかりしとてあれ枝と千枝枝極  
是とて流を又ふれしとて又け枝を俗





本  
此の里に於ては山田の里に於ては枝の立枝也  
注用

一目

村多れ今ハ山田に於ては月よ中つる事と云ふは或る尹  
追考山田系并里 先ハ外宮に於て申す所也  
儀式帳曰く受宮ハ在沼本郷山田系村  
宮中此の事ありし町と云ふ山田の系と云ふ事難  
乃云へりいふに神事近き里と山田村と  
いひしと云ふ事ありし町の比よりありて此の地  
名とありし事也

高倉山

備中國有月名

吾々代は小くもあしきる念や世をすめる思徳井水  
注用

思徳井

外宮社の内の方よりあり思井水あり根係八日向國茨屋山  
あり丹波にありて文に云ふ事あり  
受太神文に云ふ事あり

凡雅  
思徳井と云ふ事あり初て此ありし事春ハ本は  
注用

よりして思徳井は久しき事ありし事思徳井の  
注用

注云を一原井にありし事外宮山田系  
注用

供水也今も用之是ハ雄略天皇の御宇丹波  
國与佐郡より此處遷座此の時より此の地  
の二ツハ日月也圖形ありし事此の地  
日月ハ火の事と云ふ事也

住るれ月七夜もや原と云ふ事ありし事思徳井の水  
系指地此の事ありし事  
天の長井と云ふ事天の直名井と云ふ事  
又云思徳井ハ常りありし事也

乃神名神皇產靈命七世孫天村雲命也  
天二上命とて後小橋命とて下界也是外  
之代神友等其上祖より天代祖の降神の  
とての事いふ彼水と指さるる下界此の  
とての事いふけりひよりけみ此の事いふ  
りしとていられは井ハ下界此の代祖係  
也

倭姫令世記 吞天之真井之水 食長田之脩  
之種神恩 永<sup>母止</sup>餘有

石室本記曰在十二箇石屋物名号<sup>言</sup>倉山<sup>言</sup>  
之倉山とて今ハ倉山とて山とて世俗<sup>言</sup>之  
也外宮の神也

延慶氣記云彼倉山者是日本法符驗所也

